



中之島公園公会堂周辺エリア
利活用コンセプトブック【試行運用版】
《イベント主催者向け》

大阪市建設局 2025 年 3 月時点

目次

1. はじめに.....	1
1.1. コンセプトブックの目的.....	1
1.2. 対象エリア	2
2. エリアコンセプト	4
2.1. 利活用の方向性.....	5
2.2. コンセプトブックとガイドラインの関係及びの位置づけ	9
2.3. 想定される利用シーン	10
3. 参考.....	11
3.1. 公会堂周辺エリア歩行者空間化整備事業（2023 年）	11
3.2. これまでの利活用検証イベント「中之島モダンシーン」の様子	12
3.3. 公会堂周辺エリアにおける利活用ニーズ調査結果.....	13
3.4. 中之島公園	14
3.5. 公会堂周辺エリアに関する計画	15

1.はじめに

1.1. コンセプトブックの目的

大阪の中心地に位置し、北は堂島川、南は土佐堀川に囲まれた中之島公園は、水都大阪を代表する都市公園であり、明治 24 年に大阪で初めて開設され、これまで長きに渡り、市民の憩いの場として活躍してきました。公園内では、緑と水辺に囲まれた散策路を楽しむことができ、公園の西側エリアには中央公会堂や大阪市立東洋陶磁美術館、大阪府立中之島図書館等の文化施設が集積しており、中央エリアにはバラ園、東側エリアには芝生広場等、多様な空間を有する都市の中心部の貴重な公園です。中之島公園は、21 世紀に入り、新たな時代にふさわしい水の都大阪の再生に向け、中之島公園再整備基本計画を策定し、2009 年に再整備を行いました。中之島公園は、大阪市景観計画において景観重要公共施設に指定され、水都大阪のシンボルとして景観上特に重要な場所となり、都心の中のオアシスとして水都大阪の歴史と自然を継承する公園となっています。

その後、2020 年に「こども本の森 中之島」が開館し、こどもや子育て世代の来訪が増えることから、2021 年から 2 車線道路である中之島景観軸(中央公会堂前を含む)の約 590m を歩行者空間として再編し、2024 年 3 月に中央公会堂前の広場が完成しました。2024 年 10 月には、「都市景観の日」実行委員会が主催する都市景観大賞において、「中之島公園公会堂周辺地区」が「都市景観大賞 優秀賞」を受賞したところです。

また、新たな歩行者空間を含めて、この場所にふさわしい利活用のあり方を検討するため、地元団体や公園内に立地する事業者、学識経験者等と議論を重ねるとともに、歩行者空間の利活用の試行及び利活用のあり方を検証するイベント「中之島モダンシーン^(※1)」を開催してきました。(第 1 回は 2021 年 11 月 17 日～21 日(5 日間)に行い、その後は 2023 年 4 月、10 月にそれぞれ実施しています)

中之島公園公会堂周辺エリア利活用コンセプトブック【試行運用版】はこのような背景を踏まえ、中央公会堂周辺エリアでイベント等を実施する際、景観との調和等に配慮したイベント等の利活用になるよう、基本的な考え方を示すものとして作成しました。

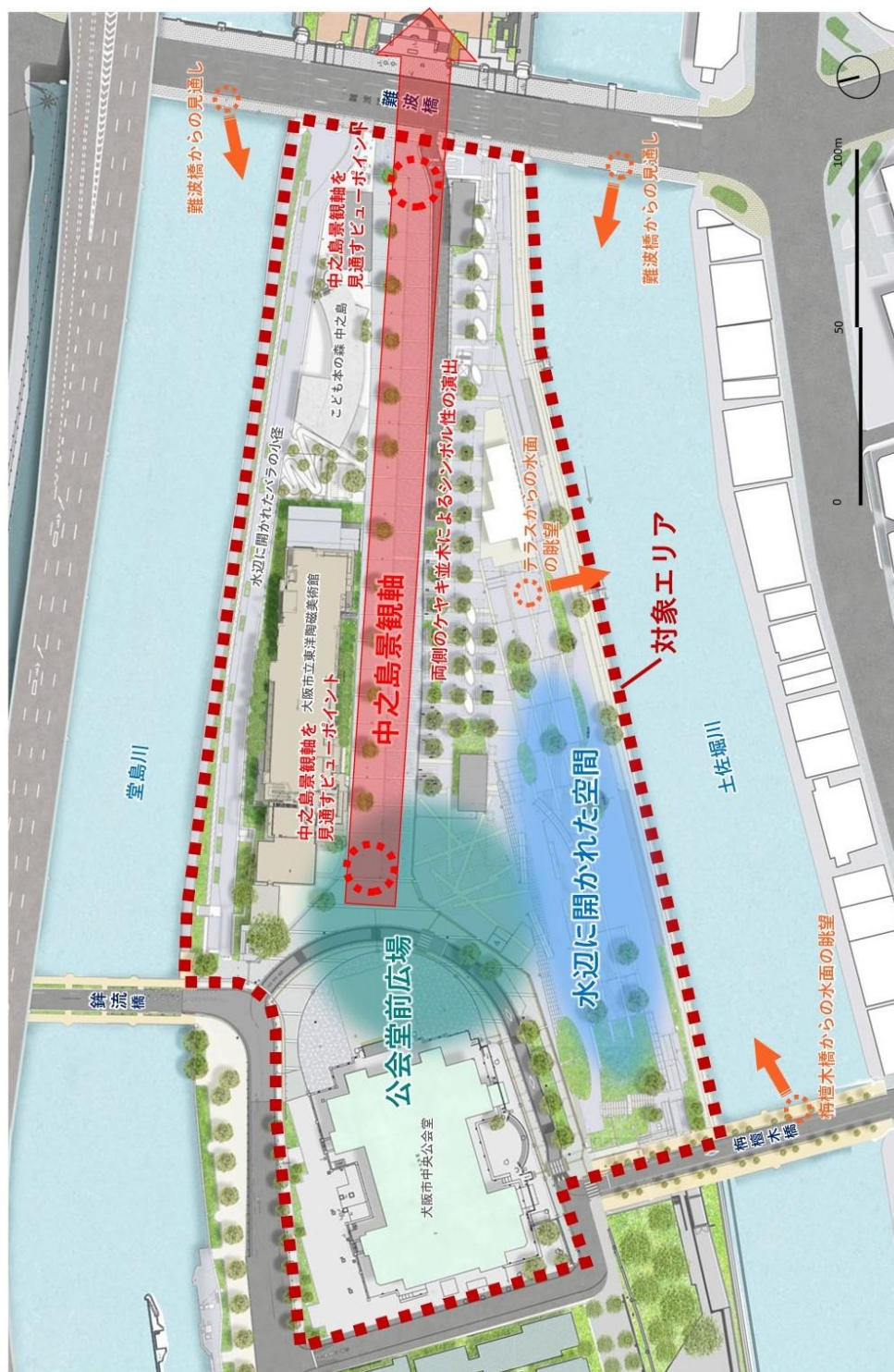
本コンセプトブックを通じて、中央公会堂周辺エリアの特性や利活用の方向性についてみなさまに知っていただき、多くの方が親しみをもち、何度でも訪れてみたいと思えるような公園となるよう取り組みを進めてまいります。

※ 1：中之島モダンシーンの様子 P.12 3.2.参照

1.2. 対象エリア

(1) 対象エリア

本コンセプトブックは、中之島公園のうち梅檀木橋～難波橋の区間である**公会堂周辺エリア**を対象とします。



参考：中之島公園再整備基本計画(2007年7月)より準用

図 公会堂周辺エリアのゾーニング

エリアの特性

① 中之島景観軸

中之島のシンボルである「中央公会堂」から大阪のシンボルである「大阪城」を結ぶ線状の“中之島景観軸”を設定し、東西に橋とみどりが見通せる景観を構成します。中之島景観軸は正面に中央公会堂が位置し、両側のケヤキ並木によりゆとりある都市空間を演出しています。レンガ色の中央公会堂を引き立てるために、グレーの落ち着いた色味の舗装とし、中央公会堂に向かってリズム感をつくりながら風格ある景観を創出しています。



② 水辺に開かれた空間

堂島川、土佐堀川に囲まれた「島」という固有の地形特性を活かして、水面の眺望を楽しむことができる憩いの空間となっています。川沿いには遊歩道を配置し、歩行者の回遊性を高めています。公園からは船の往来や水面を楽しむことができ、対岸の建物や橋上、船上からも中之島公園のみどりや賑わいを楽しめます。



③ 公会堂前広場

中央公会堂をシンボルとし、高質でゆとりある広場空間を創出します。公園と道路のレベルをそろえ、周辺環境と調和した色彩、色調とし、中央公会堂を引き立てつつ、“中之島景観軸”や中央公会堂への人の動線や視線を誘導しています。中央公会堂の正面性として、正方形の石畳を敷いています。



2. エリアコンセプト

中之島公園は、水都大阪を象徴する公園として、心地よさと賑わいを感じられる空間を提供し、都心で生活する方々の感性を豊かにしていくことを目指し、次のとおりコンセプトを設定しています。

【コンセプト】

都心の生活に潤いをもたらす水都大阪のシンボル

大公園（中之島公園ほか10公園）の魅力向上に向けた基本方針（令和3年6月）より公会堂周辺エリアでは、従前の道路と中之島公園が一体的な空間となり、こどもから大人まで多様な公園利用者が活用できる空間の創出を目指して、中之島景観軸の歩行者空間化整備を実施しました。

整備後のエリアでは、様々な利用を楽しめる場となるよう、ハードとソフトの双方のレベルアップによる好循環を生み出していくという視点に立って、本エリアをイベント等により活用する皆さまに、4つの利活用の方向性を提示します。

中之島公園の特性を活かした公園づくりと活用を進めることで、イベントによる賑わいと自由利用との両立、かつ景観との調和を図り、このコンセプトの実現に取り組んでまいります。

【コンセプトと利活用の方向性】



2.1. 利活用の方向性

(1)中央公会堂をシンボルとした景観

国指定重要文化財である中央公会堂をシンボルとした、中之島景観軸からの見通しを確保しています。中央公会堂と中之島景観軸に沿って立地する洗練された建物と緑が調和した、景観を創出しています。



難波橋から中央公会堂への見通し

〔利活用の方向性〕

イベントを開催する際は、中之島のシンボルである中央公会堂への見通しを確保するように配慮をお願いいたします。

〔アイデア例〕



中央公会堂への見通しや動線を確保したテント配置とするレイアウト



テントを低密度で分散配置することでイベント参加者による混雑の抑制

(2)自然に親しむロケーション

堂島川、土佐堀川に囲まれた「島」という固有の地形特性を活かして、水面の眺望を楽しむことができる憩いの空間となっています。水辺ならではの心地よさや楽しさが感じられる空間づくりを目指しています。



〔利活用の方向性〕

イベントを開催する際は、水辺エリアの憩い及び回遊動線の確保のほか、水辺エリアの一体的な活用が図られるようなイベントのレイアウトの配慮をお願いします。

〔アイデア例〕



水辺を感じられる休憩スペースの配置



川の景色を活かしたイベントレイアウト

(3)歴史・文化・芸術に触れるエリア

中央公会堂や東洋陶磁美術館、こども本の森 中之島等の文化施設が建ち並び、歴史・文化・芸術に触れることができるエリアです。再整備にあたっては、これらの施設と調和した「大阪の文化力が高まる交流と創造」の場にふさわしい空間となるよう落ち着いた色合いのある高質なデザインとなるよう計画しました。



〔利活用の方向性〕

イベントを開催する際は、公会堂周辺エリアの景観に調和し、落ち着いた色味の備品選定に配慮をお願いします。また会場は統一的なデザインとなるようご協力をお願いします。

〔アイデア例〕



白で統一されたテント



落ち着いた色合いの什器・備品

(4)くつろぎ憩えるオープンスペース

大阪都心の貴重なオアシスとして公園利用者が快適に憩える落ち着いた空間を創出しました。



家族やグループでのピクニック



川を眺め佇む



〔利活用の方向性〕

イベントを開催する際は、中之島公園の有する雰囲気を保ちながら、イベント参加者だけでなく公園利用者も楽しめるように配慮をお願いします。

〔アイデア例〕



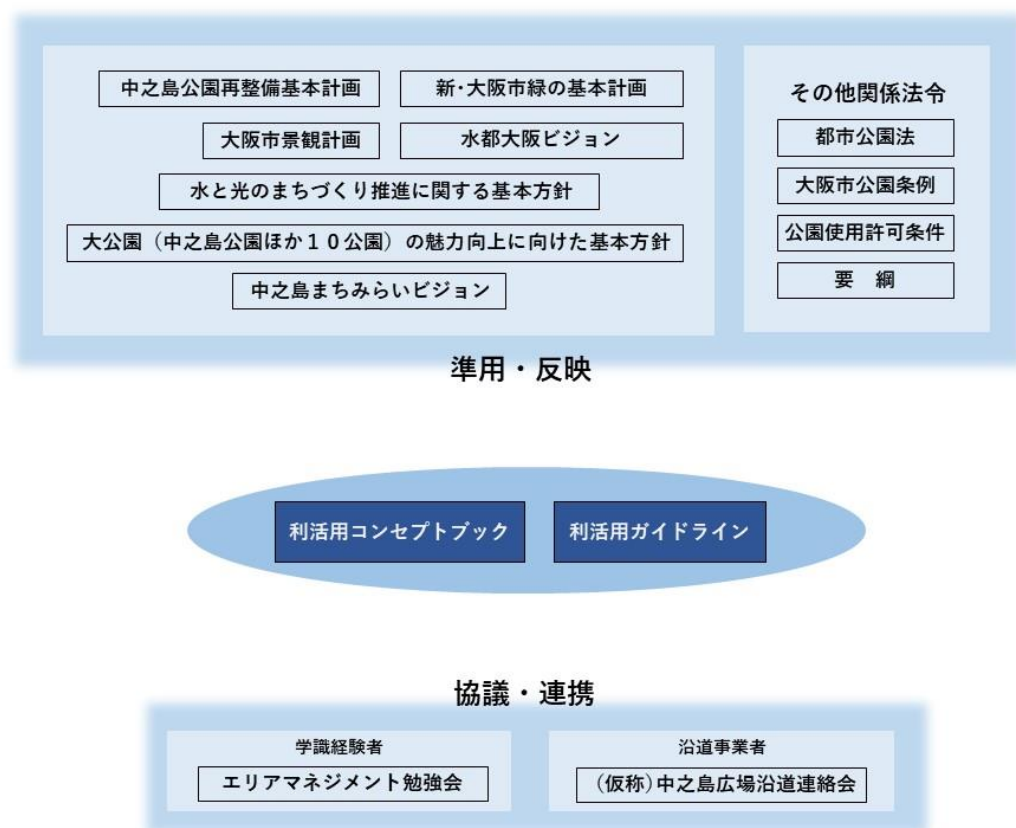
周囲の景観を楽しみながらくつろいで過ごせる空間の確保

2.2. コンセプトブックとガイドラインの関係及びの位置づけ

コンセプトブックは、公会堂周辺エリアの特性を踏まえた、利活用の方向性を示すものとして作成しています。

ガイドライン【試行運用版】は、エリアコンセプトブックを踏まえ、イベント開催時における一般の公園利用者への配慮事項、安全対策、各種設備の利用ルール等のほか、景観との調和を図るために協力をお願いしたい事項を示しております。

図 コンセプトブックとガイドラインの位置づけ



2.3. 想定される利用シーン

平日・休日の利用シーン

上記の方向性のもと、本エリアで展開される利用シーンを以下に示します。

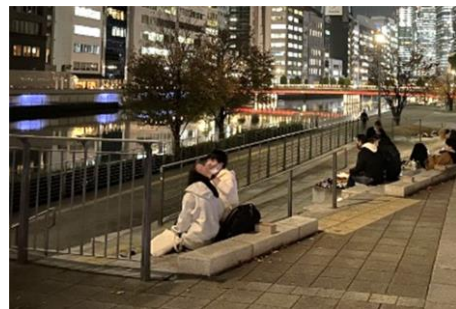
平日



オフィスワーカー
の休憩、屋外ワーク



こどもの遊び場



川を眺め佇む



家族やグループで
のピクニック

休日



公園利用者も
楽しめるイベント

3. 参考

3.1. 公会堂周辺エリア歩行者空間化整備事業（2023 年）



歩行者空間化後の公会堂周辺エリア



第 1 期整備の中之島景観軸の整備前(左)と整備後(右)



第 2 期整備の中央公会堂前の整備前(左)と整備後(右)

3.2. これまでの利活用検証イベント「中之島モダンシーン」の様子



第1回「中之島モダンシーン(2021年11月17日～21日)」の様子



第2回「中之島モダンシーン 2023 春(2023年4月22日～23日)」の様子



第3回「中之島モダンシーン 2023 秋(2023年10月21日～22日)」の様子



中之島モダンシーンホームページ

(<https://www.city.osaka.lg.jp/kensetsu/page/0000559319.html>)

3.3. 公会堂周辺エリアにおける利活用ニーズ調査結果（第1回中之島モダンシーンより）

(1) 中之島景観軸の印象評価

中之島景観軸の歩行者空間化による印象としては、「歩きやすい場所になった」「中之島にとってシンボリックな場所になった」という評価が大半を占めました。歩きやすい場所になったというのは、中之島景観軸が公園としてだけではなく日常動線としての役割を担っていることがわかります。

また全体の約40%の方が「中之島にとってシンボリックな場所になった」と回答しており、中央公会堂への眺望を活かした景観が、中之島公園の風格を一層高めていることが伺えます。

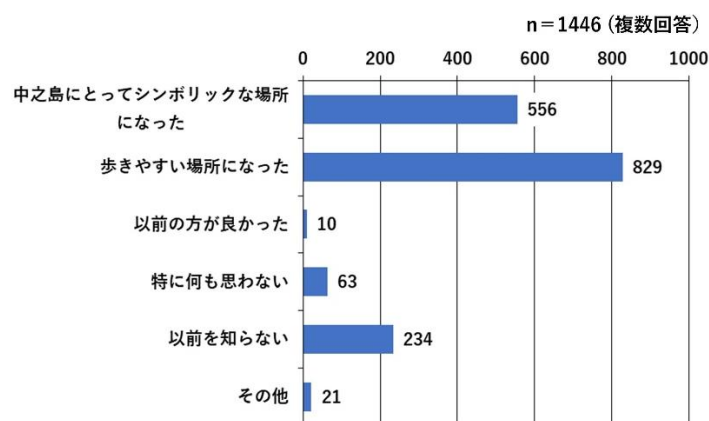


図 中之島景観軸の歩行者空間化の印象

(2) イベントに関するニーズ

公会堂周辺エリアにおけるイベントニーズとしては以下のように文化・芸術に関するイベントが最も高い結果となりました。また地元をメインとしたマルシェ・飲食イベントがその次となり、周辺施設と調和した落ち着いたイベントが求められていることが伺えます。

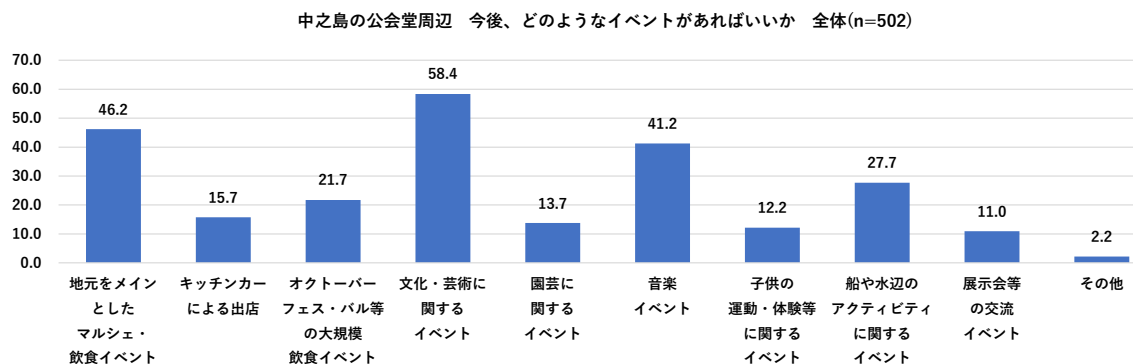


図 公会堂周辺エリアで求められるイベントの種類

3.4. 中之島公園

名称	中之島公園
所在地	北区中之島 1 丁目
開設面積	96,275.46 m ²
公園種別	風致公園
主な経過	1933 年(昭和 8 年):中之島風致地区の都市計画決定(現在の大川風致地区) 1980 年(昭和 55 年):バラ園の開園 2007 年(平成 19 年):中之島公園再整備基本計画の策定

※風致公園とは、都市公園の中の特殊公園の一種であり、風致を享受することを目的とする公園で樹林地、水辺等の自然条件に応じて適切に配置される公園のこと。



芝生広場



バラ園



市役所南側の土佐堀川沿い



中之島公園全体図

3.5. 公会堂周辺エリアに関する計画

計画名称	策定主体	中之島に関する記載内容
中之島公園再整備基本計画 (2007 年 7 月)	大阪市ゆとりと みどり振興局	中之島公園の榊壇木橋～難波橋エリアの整備方針 中央公会堂から難波橋までの中之島景観軸に 3～4 本列 並木のシンボル通り中央公会堂と東洋美術館等文化芸術 の交流となる広場
新・大阪市緑の基本計画 (2013 年 11 月)	大阪市建設局公 園緑化部	大川・中之島一帯におけるみどりの空間づくり ・水都大阪の豊かなイメージの醸成 ・水都大阪を代表する都市景観の形成
大阪市景観計画 (2024 年 4 月)	大阪市計画調整 局計画部都市計 画課	水の都大阪の歴史や伝統を引き継ぐ、風格ある都市景観 を形成する 中之島は景観重点届出区域であり、中之島公園は景観重 要公共施設に指定
水都大阪ビジョン (2020 年 11 月)	水都大阪コンソ ーシアム	ビジョン：世界に類を見ない第一級の水都の創造とともに、 住まう人・携わる人・訪れる人を笑顔に
水と光のまちづくり推進 に関する基本方針 (2021 年 3 月)	水と光のまちづ くり推進会議	世界に誇る「水と光のシンボル空間」の実現 誰もが憧れる「水と光の首都大阪」ブランドの確立
大公園(中之島公園ほか 10 公園)の魅力向上に向 けた基本方針 (2021 年 6 月)	大阪市建設局公 園緑化部	中之島公園のコンセプト 都市の生活に潤いをもたらす水都大阪のシンボル
中之島まちみらいビジョ ン (2023 年 3 月)	(一社)中之島ま ちみらい協議会	D ゾーン(中之島公園周辺エリア)のコンセプト 「探究」と「余暇」を楽しむパブリックスペース



大阪市内の景観重要公共施設(左から中之島公園、御堂筋、土佐堀川、旧淀川)